



## 学校 Ver3.0 生き抜くための「学びのステージ」について考える 学力向上フォーラム in 多久 が開催されました



11月30日(土) 多久市中央公民館において、「多久の子ども」の9年間の学びや成長の姿の報告と講演が行われました。当日は、保護者、子どもたち、教育関係者など、257名の参加者がありました。

### 【講演】「ソサエティ 5.0 時代に向かう企業と創り出す人材」

講師 多久市義務教育学校 ICT推進アドバイザー  
(コニカミノルタ株式会社)

石黒 広信 氏



石黒先生は、多久市の目指す「働き方改革」と「アクティブ・ラーニング」に関するプロジェクトにおいて、技術者の知見をもとにアドバイザーとして御活躍されるなど、多くの自治体でICT利活用教育の推進に係るコンサルティングをなさっています。今回の講演においては、

- 自分のアイデンティティを持ちながら、価値観の違う人々と話し合い、協働してものごとを成し遂げる力が必要である。
- 超多様化社会では、基礎学力があった上で様々な価値観を調整し、知識を組み合わせる新しい価値を創造するスキルやITのスキルなどコンピューターの科学的な知識が必要である。
- 資源を持たない国が成長するためには、IT産業が鍵になる。人が社会を楽しみながら生きるためにもITで何ができるのか、国語や算数と同様に特別な技能ではなく知っておく必要がある。

などを、テレビ会議システムにより、同社の吉田明子氏、五寶匡郎氏とともにお話しいただき、時代の変化の中を生き抜く子どもたちに必要な力、学校教育の目指すべき方向性などを教えていただきました。

### 【発表】「9年間の『多久の子ども』の学びや成長の姿」

発表者 義務教育学校3校の子どもたち、保護者



義務教育学校として3年目を迎えた東原庫舎東部校・中央校・西溪校の1年生から9年生までの児童生徒及び保護者・PTA役員の方々が「つながり」をテーマに、9年間の学び・ふれあい・地域との深い関わりについて発表されました。

- つながりⅠ（学び）
  - ・前期及び後期課程の乗り入れ授業の実施
  - ・生と死を考える授業の実施
  - ・保護者や地域の有志による学習支援等
  - ・イングリッシュサマーフェスタの実施 等
- つながりⅡ（ふれあい）
  - ・サマースクール（生徒が児童に教える）の実施
  - ・前期課程での論語検定(検定員は後期課程生徒)
  - ・縦割り班活動で行事の実施
  - ・入学式で1年生を7年生がエスコート 等
- つながりⅢ（地域とのつながり「郷土愛」）
  - ・論語への取組(論語かるた大会など)
  - ・郷土の伝統芸能の継承(多久聖廟の釈菜の舞の披露など) 等
  - ・体験活動(びわ収穫、そば打ちなど)の実施

#### 【発表への感想】

- 子どもが発表をすることで、学ぶ目的や意義を理解することにつながっている。
- 3校の地域の特色も見られた。他校の取組は、大変刺激になった。
- 地域との関わりが良くわかる内容であり、子どもたちや保護者自らが創り出す多久ならではのフォーラムと感じた。

なお、出席者からの主な感想は以下のとおりです。

- 異業種の話であり考えることが多かった。アナログ的な体験に加え、ICTを利活用した授業が大切になるのだと感じた。(保護者)
- 最初「Society5.0って何?」と思ったが、時代の変化と求められる力など大変興味深い内容であった。(教員)
- 価値も多様化、協働で価値を創り出す時代であることやICTの基礎的な体験をさせたいという講師の思いを強く感じた。(教員)